

学校法人 山本学園

外部評価報告書の概要

平成 21 年 8 月

はじめに

平成 21 年 8 月、山本学園では、外部評価委員会 委員長に張 紀久夫様（元 阪大教授、福井工業大学教授、現 豊田理化学研究所研究員）、副委員長に久野 良民様（元 和光証券（現在みずほ証券）副社長、新和光投信社長、現 中小企業経営顧問）をお迎えし、第一回の外部評価委員会を開催いたしました。

委員の方々には、ご多用中にもかかわらず、事前にお渡しした資料をご覧の上、委員会当日はご来園いただき、厚くお礼申し上げます。

今回の委員会につきましては、まず、学園の概要について資料に沿って説明し、その後、施設の視察、個別ヒアリング、質疑応答という形式で進め、学園に対するご理解を深めていただいた上で、学園が実施した自己点検・評価のうち、特に教育を中心とする活動に対し、ご意見、ご提言をいただきました。

今回の評価結果には、学園として受けとめるべき点多々ございます。これらのご指摘を真摯に受けとめ、改善に活かしていくことにより、社会における学園の役割を確実に果たせるよう努力して参ります。

本学園は、昨年 7 月以降「新しい山本学園」として改革・改善に取り組んでおりますが、まだまだその途上でございます。本学園がめざします「教育満足度（授業と進路指導）において中四国トップ水準」の専門学校の実現に向け、外部評価委員の皆様には、今後とも継続してご指導いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、この報告書をより多くの方々にご覧いただき、忌憚のないご意見をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

平成 21 年 8 月

学校法人 山本学園

理事長 清水健太郎

外部評価委員会 次第

日程 8月20日(木) 14:00~18:00、8月21日(金) 10:00~17:00

会場 山本学園 本校舎1階 会議室

スケジュール

1日目

- 1 開会挨拶(理事長、学園長)、出席者自己紹介
- 2 スケジュール説明、配布資料説明
- 3 学園の現状説明
- 4 学園長、副学園長との個別面談

2日目

- 1 学園の概要、自己評価書の説明
- 2 本部ヒアリング
- 3 学校ヒアリング
- 4 本校舎施設設備視察、授業視察
- 5 質疑応答
- 6 関連金融機関 理事長面談
- 7 外部評価委員による打ち合わせ
- 8 外部評価委員長講評
- 9 理事長謝辞、閉会

委員からのご提言と学園の対応

外部評価委員の方からは、「新しい教育のスタートラインとしてはしっかりしたものができている。これからは実行あるのみで、2,3年掛かると思うがその間の人材育成が成否を決定する。」とのご講評をいただきました。

また、当日は多岐の項目にわたり貴重なご意見ご提言を頂戴いたしました。

主なご意見ご提言と学園としての対応は次のとおりです。

区分	ご意見・ご提言	学園の回答・今後の対応
教員	○ 良質の人材を育てるには、名のある立派な教師が必要。生徒は教師を慕って集まる。良い先生を大学などから招くのもいいのではないか。	○ 講師に代わる優秀な教員を更に採用する予定です。大学から教員・講師を迎えることも考えていきます。
教養科目	○ 教養科目は大学編入学のためには必要。各専門学校に導入してはどうか。夏休みとか休日に各校の希望者を集めて集中講義にするのも一法。	○ 22年度から導入予定です。情報ビジネスのビジネス実務コースでは必修科目、他校は土曜日に希望者を集めて開講予定ですが、集中講義についても検討いたします。
講座	○ 高齢化と少子化社会では、高齢者を対象としたコースの検討も必要。 ○ ボランティア的な人（社会人）を対象とした短期資格取得コースなどを行ってはどうか。	○ 社会人を対象とした短期の資格取得講座については、学校経営の観点からも検討が必要です。夜間も含め将来的な課題として検討いたします。
授業	○ シラバスにより、学生にどのような内容を学ぶのかを前もって知らせることも大切。 ○ 学生の意見を取り入れて、カリキュラムを編成することは重要。 ○ 教育内容の評価のためには卒業生	○ 全学校のシラバスを整備し、科目間の関連性の調整等を早急 to 実施します。シラバスは学生に公開し、学習計画に生かせるものといたします。 ○ 本年度より全学校での授業評価や校長と学生の懇談などを実施し、学生の意見をカリキュラムに取り入れています。22年度のカリキュラムは更に充実したものにいたします。 ○ 校友会とも連携して具体的な方法を

	<p>の意見を聞くことも必要。</p> <p>○ 学校別に資格取得目標数に向かって全力投球し、卒業生の50%（将来は70～80%）の取得を目標とする（中四国トップ）。</p>	<p>検討いたします。</p> <p>○ 松山コンピュータは国家資格の基本情報技術者試験において1年生10月で60%、2年生4月で100%合格を目標にカリキュラムを見直しました。他の学校でも目標資格を明確にし、計画的な対策を実行してまいります。</p>
進路	<p>○ 就職のためには、卒業生が高い評価を受けることが重要。</p> <p>○ 高学歴の人ばかりの社会が良いのではない。技術と能力で社会に貢献する人生が自分にも他人にも良いと思えるのがよい社会ではないのか。</p> <p>○ 卒業後も面倒をみるというのは、実際には大変なことではないか。</p>	<p>○ 就職先での卒業生の評価についても調査把握したいと考えており、具体的方法を検討いたします。</p> <p>○ 一人ひとりの意欲や個性を伸ばし社会に貢献できる技術者を育てることは専門学校の使命です。今後も努力を続けてまいります。</p> <p>○ すでに卒業生の再就職が決まった例もあります。進路指導室を中心に各学校や校友会とも連携を取りながら、学園全員で取り組んでいきます。</p>
募集	<p>○ 入学時の学費減免より入学後の資格取得にインセンティブを与えれば、学生の意欲がわくのではないか。</p> <p>○ 生徒募集に体験入学を行うことは良い。どのようなことを学習するかが理解できる。</p>	<p>○ 入学後は進級時特待生制度を用意しておりますが、インセンティブについても検討いたします。</p> <p>○ 毎週土日に体験入学を実施して、多くの高校生の参加を得ています。また、高校への出張講義や地域イベントへの参加など、学校について知ってもらう機会を設けておりますが、更に工夫をいたしたいと考えております。</p>
その他	<p>○ どの学校を中心とするかなど中期計画・戦略が必要では。</p> <p>○ 「山本学園」より「松山女学院」の知名度が高い。名前は重要であり、ひとつの学校の名前の下に学部があるような方が対外的にも良いのでは。</p>	<p>○ 各校・各コースの内容を慎重に検討し中期的戦略を策定したいと思います。</p> <p>○ 名称をどうするか、どう表現するかは重要な問題です。今後の学校の編成などを含め、中期的に検討いたします。</p>